

リニューアルしたカリキュラムでロジスティクスの
スペシャリストを育成

最新版

CERTIFIED LOGISTICS MASTER COURSE

物流技術管理士 資格認定講座

第114期
(東京開催)

2015年
5/20(水)~
10/23(金)

2015年度より東京開催は年間2期になります

受講対象

1. 物流に関する基本的な用語を理解している方 (※物流実務経験2年程度)
2. 「物流技術管理士補」の有資格者
※「物流技術管理士補」は当協会が開催している「物流技術管理士補スクーリング」を修了した方に授与される資格です。

本講座の特色

- 企業の物流・ロジスティクスから全体最適を実現するスペシャリストを育成します。
- 実務経験豊富な講師陣の指導の下、専門知識のみならず実務への応用についても学ぶことができます。
- 各講義に、講義内容のポイントを確認する時間を設け、目的意識を醸成します。
- ケーススタディを含めた個人演習・グループ演習を通じ、実践力の強化を図ります。
- 受講レポートや論文の作成を通じて、今後自社で取り組むべき課題や改善施策を検討します。
- 様々な業種、立場の方々との交流を通して、企業の垣根を越えたヒューマンネットワークが構築できます。

第114期 物流技術管理士資格認定講座 開催にあたって

わが国の経済は、大幅な金融緩和といった政府の一連の経済政策により、円安傾向が進み、株価も上昇しているなかで、日本経済を再び成長軌道に乗せるための正念場にあります。一方、経済活動を支える物流を取り巻く環境は、トラックドライバーを中心とした人手不足や、それに伴う人件費の高騰等の深刻な問題に直面しております。これらの問題に対処するためには、荷主企業と物流企業が協力し合ってモーダルシフトや共同輸配送等に取り組むとともに、環境負荷低減に配慮した物流・ロジスティクスの効率化や高度化を推進する必要があります。そのためには、物流・ロジスティクスの専門知識やマネジメント技術を有したスペシャリストが欠かせません。

私ども公益社団法人日本ロジスティクスシステム協会では、物流・ロジスティクスのスペシャリスト育成の場である「物流技術管理士資格認定講座」をこれまで20年以上にわたり開催しており、現在9,400名以上の物流技術管理士が誕生し、各方面で活躍しております。

また当協会では2015年度の開催にあたり、本講座をリニューアルいたしました。より受講しやすく、より充実した講座にするともに、講座で学んだことを実務で活かすやすくするための仕組みも導入いたしました。貴社の企業価値向上に寄与する人材を育成するために、ぜひ本講座を積極的にご活用ください。



公益社団法人
日本ロジスティクスシステム協会
会長 西田 厚聡
(株式会社 東芝 相談役)

▶ 物流技術管理士とは

複数の物流業務を全体最適の視点から管理し、物流品質の向上や効率化策を実践する管理者や、分析的な手法から物流現場を改善する施策を立案し、実行計画を推進するリーダー等の「物流・ロジスティクスのスペシャリスト」＝「物流技術管理士」です。

【物流技術管理士の要件】

- ① 物流・ロジスティクスの全領域にわたる専門知識や管理技術を有し、実務で活かすことができる。
- ② 現状を把握し、ありたい姿（目標）を描き、そのギャップから問題発見、解決すべき課題を設定することができる。
- ③ 課題を解決するための方策を立案し、関係者の理解を得て、協力しながら、実行することができ、さらにその効果を評価することができる。
- ④ 全体最適を志向し、幅広い視点で改善策や新たなサービスを企画することができる。
- ⑤ 社内外の関係者や顧客に対し、提案、提言ができる。

▶ 企業における物流技術管理士の役割

荷主企業（製造業、流通業）

- ・ QCD（品質、コスト、納期）の観点から最適な物流ネットワークを設計することができる。
- ・ 社内内の関係部門や他社と連携し、物流コスト削減や在庫の適正化を推進できる。
- ・ 提案依頼書（RFP）を作成し、物流業務の委託先（パートナー）の選定、評価ができる。

物流企業（物流子会社、物流事業者）

- ・ QCD（品質、コスト、納期）に係る定量的な指標を用いて、物流業務を管理することができる。
- ・ 全体最適の視点から業務に取り組み、コスト削減、品質・生産性向上を推進できる。
- ・ 荷主企業の物流実態を適切に分析し、問題点を把握したうえで、適切な品質・コストを踏まえたソリューションを立案、提案することができる。

その他（情報システム業、人材派遣業等）

- ・ コスト削減や品質向上等、顧客企業の物流・ロジスティクスにおけるニーズに的確に対応した製品やサービスを提供することができる。
- ・ 顧客企業の物流・ロジスティクスの実態を分析し、問題解決につながる施策において、新たなサービスや製品を企画・開発をすることができる。

2015年度物流技術管理士資格認定講座開催日程

単 元	開催期 開催場所	第114期	第115期	第116期	第117期	第118期
		東京	大阪	名古屋	東京	大阪
プレミーティング		2015年5月20日（水）	2015年6月10日（水）	2015年9月9日（水）	2015年9月16日（水）	2015年10月6日（火）
		2015年5月21日（木）	2015年6月11日（木）	2015年9月10日（木）	2015年9月17日（木）	2015年10月7日（水）
1単元		2015年6月3日（水）	2015年6月24日（水）	2015年9月15日（火）	2015年10月6日（火）	2015年10月20日（火）
2単元		2015年6月4日（木）	2015年6月25日（木）	2015年9月16日（水）	2015年10月7日（水）	2015年10月21日（水）
3単元		2015年6月16日（火）	2015年7月8日（水）	2015年10月6日（火）	2015年10月20日（火）	2015年11月10日（火）
		2015年6月17日（水）	2015年7月9日（木）	2015年10月7日（水）	2015年10月21日（水）	2015年11月11日（水）
4単元		2015年7月2日（木）	2015年7月23日（木）	2015年10月15日（木）	2015年10月28日（水）	2015年11月19日（木）
		2015年7月3日（金）	2015年7月24日（金）	2015年10月16日（金）	2015年10月29日（木）	2015年11月20日（金）
5-6単元		2015年7月7日（火）	2015年8月4日（火）	2015年11月10日（火）	2015年11月17日（火）	2015年12月8日（火）
6単元		2015年7月8日（水）	2015年8月5日（水）	2015年11月11日（水）	2015年11月18日（水）	2015年12月9日（水）
7単元		2015年7月22日（水）	2015年8月19日（水）	2015年11月18日（水）	2015年12月10日（木）	2016年1月13日（水）
		2015年7月23日（木）	2015年8月20日（木）	2015年11月19日（木）	2015年12月11日（金）	2016年1月14日（木）
8単元		2015年8月5日（水）	2015年9月3日（木）	2015年12月9日（水）	2016年1月13日（水）	2016年1月21日（木）
9-10単元		2015年8月6日（木）	2015年9月4日（金）	2015年12月10日（木）	2016年1月14日（木）	2016年1月22日（金）
11単元		2015年8月25日（火）	2015年9月8日（火）	2016年1月13日（水）	2016年1月26日（火）	2016年2月4日（木）
12単元		2015年8月26日（水）	2015年9月9日（水）	2016年1月14日（木）	2016年1月27日（水）	2016年2月5日（金）
		2015年9月8日（火）	2015年10月15日（木）	2016年1月26日（火）	2016年2月9日（火）	2016年2月16日（火）
13単元		2015年9月9日（水）	2015年10月16日（金）	2016年1月27日（水）	2016年2月10日（水）	2016年2月17日（水）
		2015年9月26日（土）	2015年11月14日（土）	2016年2月13日（土）	2016年2月27日（土）	2016年3月5日（土）
面接試験		2015年9月26日（土）	2015年11月14日（土）	2016年2月13日（土）	2016年2月27日（土）	2016年3月5日（土）
資格認定証授与式		2015年10月23日（金）	2015年12月11日（金）	2016年3月4日（金）	2016年3月18日（金）	2016年3月25日（金）

※諸事情により、内容・日時等を変更する場合がございますので、ご了承ください。

物流技術管理士資格認定講座はリニューアルします！

1. より実務で成果を出していただくために

今回のリニューアルでは、受講者の方が受講前から受講後に至るまで、常に高い目的意識を持ちながら受講し、「自分が掲げた目標（受講後のありたい姿）を達成する」、「受講後に多方面で活躍できる人材に成長する」等の実現に向けて、新たな仕組みを導入します。

受講前

- ・チェックリストとステップアップシートを用い、現状把握を行います。
自身の強み、弱みを整理したうえで、本講座受講後のありたい姿（目標）を記していただきます。

受講中

- ・ふりかえりシートを用い、講義前に学ぶべきポイントを確認します。
- ・経験豊富な講師陣より、物流・ロジスティクスの専門知識を体系的に学びます。
- ・学んだ知識を活用する個人演習やグループ演習を行なうことで、実践力の強化を図ります。
- ・単元ごとに講義で習得した内容を自社の業務にどう活かせるかをレポートにまとめます。
- ・自身の業務や自社における課題を設定し、改善・改革案を考え、論文にまとめます。

受講後

- ・チェックリストで自身の成長度を把握します。
- ・受講前に立てた目標に対して自己評価を行い、論文の内容等を参考に新たな目標を設定します。

受講前

受講中

受講後

物流技術管理士
(活躍できる人材)

2. 受講しやすい単元構成

18日間の講義は全て2日間単位での講義構成になりました。

資格認定について

- 出席要件について：全講義日数18日のうち、14日以上出席すること。
- レポートについて：前期・後期2回の受講レポートを提出すること。
- 試験について：①客観試験・②論文試験・③面接試験それぞれの得点が合格基準点（6割以上）を満たし、総合得点が60点以上であること。

①客観試験

客観試験とは、講座で学んだ内容の習熟度を測るために実施する筆記試験です。前期・後期の2回に分けて実施されます。試験問題は、講義で学習したポイントとなる内容を中心に、正誤問題、選択問題、穴埋め問題、計算問題等の形式で出題されます。

②論文試験

講座で学んだ内容を活用しながら、5,000字～6,000字の論文を作成します。論文のテーマは自身の業務や企業における改善や改革に関するものとなります。物流・ロジスティクスの全般知識に加えて、第三者の理解を得るための論理力や文章作成力が問われます。また開催期ごとに、優れた論文を優秀論文と認定し、表彰を行なっています。

③面接試験

作成した論文の内容について、第一線で活躍されている企業人、学識経験者、コンサルタントの方々に構成される物流技術管理士専門委員会の委員2名との面接試験を行ないます。面接試験では、自身の作成した論文を第三者への確に説明し、質問に分かりやすく回答するプレゼンテーション能力が問われるとともに、質疑応答を通じて講義内容を踏まえた物流・ロジスティクスの理解度が確認されます。

【各試験の配点（括弧内は合格基準点）】

客観試験	論文試験	面接試験	減点	総合得点				
前期・後期合計 30点満点 (18点以上)	+	40点満点 (24点以上)	+	30点満点 (18点以上)	-	①欠席減点 ②受講レポート 提出遅延減点	=	100点満点 (60点以上)

第114期物流技術管理士資格認定講座 カリキュラム

プレミーティング

講座初回の講義となるプレミーティングでは、グループ演習を通じて、問題発見、課題抽出及び課題解決技法について学ぶとともに、受講者間のヒューマンネットワークの構築を図ります。

会場：
タイム24ビル

日時	講義名称	講義内容	講師
5月20日(水)	9:30-18:00 開講式 オリエンテーション	オリエンテーションでは、講座の進め方等をご説明します。	中野 昭男 氏 のぞみ経営研究所 所長 (第21期物流技術管理士)
	グループ演習 問題の発見と解決	問題の抽出とその整理、問題の評価と課題設定、課題対策の立案 ※グループ演習では、約10名程度のメンバーでディスカッションを行い、最後に発表を行います。	
	18:30-20:00 ◆懇親会		右田 政三 氏 刈谷紙器(株) 顧問
5月21日(木)	9:30-17:00 グループ演習 問題の発見と解決、発表・講評	※名刺を多めにご用意ください。	
	17:00-17:10 振り返り 〈プレミーティング〉		

第1単元 経営とロジスティクス

企業の経営環境が大きく変化する中、ロジスティクスのさらなる高度化が求められております。本単元では、経営の視点から、ロジスティクスの役割、顧客サービスの考え方及び情報システムの役割機能等について学びます。

会場：
フォーラム8

日時	講義名称	講義内容	講師
6月3日(水)	9:30-11:30 1. 企業価値を高める ロジスティクスの役割	物流管理とは、物流からロジスティクスへ至るプロセス等	湯浅 和夫 氏 (株)湯浅コンサルティング 代表取締役社長
	12:30-14:00 2. ロジスティクスにおける 顧客サービス	顧客とは、ロジスティクスにおける顧客サービスマネジメント、顧客満足のすすめ方等	重田 靖男 氏 (株)東京ロジスティクス研究所 顧問 (第20期物流技術管理士)
	14:10-15:40 3. ロジスティクス戦略と ネットワーク	ロジスティクス戦略とは、ロジスティクスネットワーク、ネットワークの設計等	
	15:50-17:40 4. ロジスティクスIT概論	ロジスティクスにおける情報システムの役割・機能、情報システム構築のポイント等	植村 邦夫 氏 (株)ユーロジプランニング 代表取締役

第2単元 物流コスト管理

物流コスト管理は本講座における重要なテーマであり、物流・ロジスティクスの全領域に関わるものです。物流コスト管理全般の知識や物流ABCについて学び、以降の講義にコスト意識も持って臨んでいただきます。

会場：
フォーラム8

日時	講義名称	講義内容	講師
6月4日(木)	9:30-12:30 1. 物流コスト管理概論	物流コストとは(目的、コスト・トレードオフ)、物流コストの実態、KPI、物流コスト削減策等	藤田 浩二 氏 ロジ・ソリューション(株) 代表取締役 (第25期物流士)
	13:30-16:30 2. 物流ABCの活用	物流ABCとは、物流ABC活用手法等	岡田 和典 氏 岡田ビジネスティベロップメンツ 代表取締役社長
	16:30-16:40 振り返り 〈第1・2単元〉		

第3単元 物流拠点管理

物流拠点はロジスティクス戦略を決定する重要な役割を果たします。本単元では、物流拠点の実践的な管理技法や機器、システムについて学ぶとともに、物流拠点配置や庫内レイアウトの考え方をグループ演習で学びます。

会場：
三田NNホール

日時	講義名称	講義内容	講師
6月16日(火)	9:30-12:30 1. 保管・荷役とマテハン機器	保管・荷役の機能、倉庫の種類と倉庫管理のポイント、保管コスト、マテハン機器の特徴等	鈴与(株)
	13:30-15:30 2. 物流拠点におけるIT活用	拠点管理におけるIT活用の概要、WMSの目的と機能等	秋葉 淳一 氏 (株)フレームワークス 代表取締役社長
	15:40-17:40 3. 生産性と品質管理	拠点管理における生産性とその向上、物流品質とは等	酒井 路朗 氏 エルディーシー研究所 所長
6月17日(水)	9:30-17:00 グループ演習 4. 物流拠点管理演習	物流拠点の役割・機能、流通チャンネルと拠点配置、レイアウト技法等 ※グループを再編成し、新たなメンバーとともにケーススタディに取り組みます。	サカウエアハウス(株)
	17:00-17:10 振り返り 〈第3単元〉		

第4单元		輸配送管理		本单元では輸配送管理に係わる各輸送モード、運賃体系、関連法規制、運行管理等や輸配送における最新ITシステムについて学んだ後、個人演習を通じて共同配送による効果の算出方法や輸配送システムの構築の考え方について学びます。	会場： サンアンドサンビル
日時	講義名称	講義内容	講師		
7月2日(木)	9:30-14:50	1. 輸配送管理概論	輸送モードの特徴、運賃・料金体系、輸送関連の法制度、モーダルシフト 等	河村 大 氏 セイノーホールディングス(株) 経営企画室 室長 (第30期物流技術管理士)	
	15:00-17:30	2. 輸配送におけるIT活用	輸送モード別IT活用の概要、支援技術、配車管理・運行管理・動態管理 等	菊谷 勝利 氏 SGシステム(株) BPO事業部 部長 (第82期物流技術管理士)	
7月3日(金)	9:30-16:30	個人演習 3. 輸配送システムの構築演習	輸配送システム構築のポイント、共同輸配送、クロスドッキング 等	坂 直登 氏 坂技術士事務所 代表	
	16:30-16:40	振り返り <第4单元>			

第5单元		包装技術		包装は、サプライチェーン全体に深く関わっています。本单元では包装の目的や機能といった基本からロジスティクスにおける包装のあり方等幅広く学びます。	会場： 三田NNホール
日時	講義名称	講義内容	講師		
7月7日(火)	9:30-12:30	1. 包装技術概論	包装の目的、包装の基礎、包装の社会的役割 等	北山 義弘 氏 (同) 北山コンサルティング 代表	

第6单元		物流現場改善		物流業務の現状把握・分析・評価・改善をするためには、科学的管理技法の活用が有効です。本单元では、VA、IE、OR、QCといった科学的管理技法の基礎や物流現場における実践的な改善技法について、講義や演習を通じて学びます。	会場： 三田NNホール
日時	講義名称	講義内容	講師		
7月7日(火)	13:30-16:50	1. 科学的管理技法概論	管理技術とは、科学的管理技法（VA、IE、OR、QC） 等	渡邊 一衛 氏 元成蹊大学 理工学部 情報科学科 教授	
7月8日(水)	9:30-16:30	個人演習 2. 物流現場の改善技法	問題のとらえ方、分析手法、物流改善の技法、改善事例 等	(株)日本能率協会コンサルティング	
	16:30-16:40	振り返り <第5・6单元>			

第7单元		総合演習 I		グループに分かれてケーススタディに取り組みます。架空企業の物流現場における輸配送や荷役作業、在庫管理等様々な問題点を分析し、改善策を検討することで業務改善や課題解決に取り組む際の実践力の強化を目指します。	会場： サンアンドサンビル
日時	講義名称	講義内容	講師		
7月22日(水)	9:30-10:30	前期客観試験	前半講義（第1～第6单元）の講義の理解度を確認します	事務局	
	11:00-17:30	グループ演習	物流改善に関するケーススタディ ※グループを再編成し、新たなメンバーとともにケーススタディに取り組みます。	(株)日本能率協会コンサルティング	
7月23日(木)	9:30-17:00	物流改善演習			
	17:00-17:10	振り返り <第7单元>			
	17:10-17:50	論文の作成に関する説明	講座初日のオリエンテーション時に出題した論文試験について、論文の作成要領の再確認等を行います。	事務局	

第8單元		在庫管理とSCM	商品ライフサイクルの短縮化やサプライチェーンのグローバル化に伴い、企業経営における在庫管理の重要性は高まっています。本單元では、在庫管理やSCMについて、理論と実践の両面から学びます。	会場： サンアンドサンビル
日時	講義名称	講義内容	講師	
8月5日(水)	9:30-12:00	1. 在庫管理とSCM概論	SCM、在庫マネジメントとSCM、在庫削減の着眼点、SCMを支える情報システム等	鈴木 定省 氏 東京工業大学 大学院 社会理工学研究科 経営工学専攻 准教授
	13:00-14:30	2. SCMの実務	実務におけるSCMの姿、SCMのモデルと組織、的確な運用管理のあり方等	石川 和幸 氏 ㈱サステナビリティコンサルティング 代表取締役
	14:40-17:10	3. 在庫管理の実務	在庫管理とは、在庫管理方式、在庫削減方策等	芝田 稔子 氏 ㈱湯浅コンサルティング コンサルタント

第9單元		グローバルロジスティクス	市場のグローバル化が進展する中で、わが国企業が競争優位を確立するためには、グローバルレベルで最適なロジスティクスの構築が重要となります。本單元では、グローバルロジスティクスの概論、国際物流の基礎知識について学びます。	会場： サンアンドサンビル
日時	講義名称	講義内容	講師	
8月6日(木)	9:30-12:30	1. グローバルロジスティクス概論	グローバルロジスティクスとは、国際物流の流れと役割、貿易実務・国際輸送のポイント等	鈴木 伸彦 氏 ㈱ジュリアンウッドベル 代表取締役

第10單元		グリーンロジスティクス	本單元では、ロジスティクス分野における環境問題を俯瞰し、法制度や行政の動向、環境負荷低減方策等包括的に学びます。	会場： サンアンドサンビル
日時	講義名称	講義内容	講師	
8月6日(木)	13:30-16:40	1. グリーンロジスティクス概論	環境問題とは、物流における環境対応の状況、グリーンロジスティクスの考え方、行政との連携、企業の取り組み事例	矢野 裕児 氏 流通経済大学 流通情報学部 教授 北條 英 日本ロジスティクスシステム協会 JILS 総合研究所 ロジスティクス環境推進センター センター長
	16:40-16:50	振り返り 〈第8・9・10單元〉		

第11單元		物流アウトソーシングと3PL	物流・ロジスティクス関連業務のアウトソーシング化が進む中で、最適なロジスティクスの構築・運用を図るためには、企業間の連携が重要です。本單元では、物流アウトソーシングの目的、3PL企業の役割及び契約のポイント等について学びます。	会場： サンアンドサンビル
日時	講義名称	講義内容	講師	
8月25日(火)	9:30-17:00	1. 物流アウトソーシング、3PL	物流アウトソーシングの目的、3PLとは、アウトソーシングと3PL、3PLプロバイダーの特徴等	㈱ロジスティクス・サポート & パートナーズ
		2. 3PLと契約	契約の重要性、委託側のポイント、受託側のポイント、RFP、契約書の内容、サービス保証等	
	17:00-17:40	論文の提出に関する説明	提出前のチェック項目、提出要領等を説明します	事務局

第12單元		ロジスティクスの社会的役割	ロジスティクスは経営活動や国民生活を支える社会基盤としての役割も担います。本單元では、それらと密接に関連するCSR、標準化及び行政の動向について学びます。	会場： サンアンドサンビル
日時	講義名称	講義内容	講師	
8月26日(水)	9:30-11:45	1. CSR	コンプライアンス、物流関連法規、労務管理等	興村 徹 氏 ㈱日通総合研究所 取締役 教育コンサルティング部担当 兼 教育コンサルティング部長
			リスクマネジメント、保険等	
	12:45-14:10			
	14:20-15:30	2. 標準化	標準化の意義と方法、物流関連規格(JIS)、ユニットロードシステム等	
	15:40-17:00	3. 行政の動向	行政の取り組み、物流施策大綱、支援施策等	
17:00-17:10	振り返り 〈第11・12單元〉			

第13單元

総合演習Ⅱ

グループに分かれてケーススタディに取り組みます。架空の3PL会社の担当者の立場となって、赤字を出している受託現場の改革を行ないます。講座で学んだ知識や技法を活用して、さまざまなアプローチから検討をすることで、この講座の受講成果を測ります。

会場：
サンアンドサンビル

日時		講義名称	講義内容	講師
9月8日(火)	9:30-10:30	後期客観試験	後半講義（第7～第12單元）の講義の理解度を確認します	事務局
	11:00-18:00	グループ演習	物流改革に関するケーススタディ ※プレミーティング時のグループ編成で、自身や他メンバーの成長を確認しつつ、課題解決を図ります。	㈱ロジスティクス・サポート & パートナーズ
9月9日(水)	9:30-17:00	物流改革演習		
	17:00-17:30	振り返り	〈第13單元〉、ステップアップシートの作成	

面接試験	9月26日(土)	10:00-17:00	(1名 15分程度の面接)	会場: タイム24ビル
資格認定証授与式・懇親会	10月23日(金)	15:00-17:30	(資格認定証の授与)	会場: タイム24ビル

資格取得者の声

- 物流・ロジスティクスに関する専門知識やマネジメント技術、企業事例等を体系的に学ぶことができました。さらには、様々な分野の物流担当者の方々と実習する機会は、物流の世界で仕事をするうえで非常に貴重な経験となりました。
- 実に“広く深く”充実したカリキュラムでした。広範囲に多くの人に関わるこのロジスティクス分野において、ロジスティクスの専門知識のみならず、マネジメントスキルの習得が重要であるということを再認識しました。
- 同期の方との交流において、日常の業務の中では聞くことのできない異業種の情報や、様々な立場からの考えをたくさん聞くことができ、担当業務の課題解決を考える際に多角的に検討するようになりました。
- 日常業務と講座受講の両立は、とても大変でしたが、専門知識と、それを実務へ落とし込むポイントについて習得できたので、自分の糧にできる講座でした。
- 物流技術管理士の資格を取得して10年以上が経過しますが、この間、同期の方に仕事を依頼したり、定期的に集合して近況報告や情報交換を継続しています。



本講座に関する以下の情報をWEBに掲載しています。

- ・2014年度「物流技術管理士」資格取得者所属企業一覧
- ・「物流技術管理士」資格取得者の声
- ※2014年度資格取得者数: 331名 (174社)
- ・物流技術管理士資格認定講座の活用目的 など

www.logistics.or.jp または「JILS」で検索

トップ → 資格講座・セミナー → 資格認定講座

物流技術管理士専門委員会 委員一覧

2015年4月現在（順不同、敬称略）

委員長	渡邊 一衛	元成蹊大学 理工学部 情報科学科 教授	委員	秋葉 淳一	㈱フレームワークス 代表取締役社長
副委員長	後藤 泰三	戦略物流研究所 所長	〃	伊藤 秀行	㈱ビー・アイ物流企画 代表取締役
〃	三木 楯彦	流通動学研究所 代表	〃	鈴木 三弘	㈱ケーエルシー 執行役員
委員	興村 徹	㈱日通総合研究所 取締役			Management Director
〃	黒坂 真一	教育コンサルティング部担当 兼 教育コンサルティング部長	〃	丹下 博文	愛知学院大学 大学院 経営学研究科 科長 教授
〃		㈱中央ロジスティクス 運輸事業本部	〃	津田 博	近畿大学 経営学部 教授 経営学科長
〃		企画部 シニア・コンサルタント	〃	右田 政三	刈谷紙器(株) 顧問
〃	酒井 路朗	エルディーシー研究所 所長	〃	小野 義	ロジ企画 ONO 代表
〃	重田 靖男	㈱東京ロジスティクス研究所 顧問	〃	佐久間 慎二	日本ロジスティクスシステム協会
〃	坂 直登	坂技術士事務所 代表			JILS アドバイザー
〃	福島 和伸	城西大学 現代政策学部 教授	〃	寺内 石一	㈱フリーロケーション 代表取締役
〃	藤巻 二三年	㈱日本ロジスティクス研究所 代表取締役	〃	長坂 悦敬	甲南大学 学長
〃	丸山 正晃	アクセント(株) 製造・流通本部 マネージング・ディレクター	〃	弥谷 恵太郎	加藤産業(株) 常勤監査役
〃	矢野 裕児	流通経済大学 流通情報学部 教授	〃	山名 良幸	鴻池運輸(株) 西日本支店 総務部 部長
〃	山田 登	海外調達支援 & 物流改革研究所 所長	〃	山根 六三郎	シンク・テック・サービス(株) 代表取締役
〃	湯浅 和夫	㈱湯浅コンサルティング 代表取締役社長			

受講申込書

申込FAX:03-3436-3190

受講申込規程

受講料

日本ロジスティクスシステム協会会員	総額 486,000円 ／1名 (受講料450,000円+消費税36,000円)
上記会員外	総額 594,000円 ／1名 (受講料550,000円+消費税44,000円)

●有資格者優待

当協会の認定する下記資格を持つ方は優待料金にて受講いただけます。
該当する方は受講申込書の有資格欄に資格名称をご記載ください。
(対象:物流技術管理士補、国際物流管理士、グリーンロジスティクス管理士、物流現場改善士)
◆日本ロジスティクスシステム協会会員 …… 総額432,000円(受講料400,000円+消費税32,000円)／1名
◆上記会員外 …… 総額540,000円(受講料500,000円+消費税40,000円)／1名

受講料に含まれるもの

- テキスト、資料代
- 審査料

受講対象

- 物流に関する基本的な用語を理解している方
(※物流実務経験2年程度)、
もしくは物流技術管理士補の有資格者。

受講定員

100名

受講申込方法

- WEBまたはファックスで受け付けています。

WEBの場合

当協会ホームページの本プログラムのページよりお申し込みください。

トップ → 資格講座・セミナー → 資格認定講座 → 物流技術管理士資格認定講座

※当協会のホームページは www.logistics.or.jp または「JILS」で検索してください。

ファックスの場合

- 下記の申込用紙に必要事項を明記のうえ、ファックスにて事務局までお申し込みください。
- 「参加証」と「請求書」は受講日の約1週間前までにお送りいたします。お手元に届かない場合には、ご連絡をお願いいたします。
- 本講座の受け付けは、先着順、定員になり次第、締め切らせていただきます。あらかじめご了承のほど、お願い申し上げます。詳しくは事務局までお問い合わせください。

受講料支払い方法

- 請求書が届き次第、指定銀行の口座にお振込みください。
- お支払いは、原則として開催前日までをお願いいたします。
(開催後になる場合は、入金予定日を受講申込書の支払予定日欄に明記してください。)
- 振込手数料は、お客様にてご負担願います。

【お願い】

- 受講予定の方のご都合が悪い場合は、全単元を代理の方が受講ください。なお、代理の方のご受講も不可能な場合は、下記の規定により、キャンセル料を申し受けますので、あらかじめご了承ください。
(注)キャンセルは、ファックスでのご連絡のみ申し受けます。

【キャンセル規定】

開催30日前～15日前(開催日初日を含まず起算) …… 受講料の10%
開催14日前～8日前 …… 受講料の20%
開催7日前～前々日 …… 受講料の30%
開催前日および当日 …… 受講料の全額
※キャンセル料は原則として消費税を除く受講料をもとに計算

ご注意

- テキストは会場でお渡しいたします。テキストのみの販売はしておりません。
- カメラ、録音機等の持込みはご遠慮ください。

受講申込先・プログラム内容の問い合わせ先

公益社団法人 日本ロジスティクスシステム協会 企画推進部
〒105-0022 東京都港区海岸1-15-1 スズエベイティアム3F
TEL:03-3436-3191 FAX:03-3436-3190

会場案内

- タイム24ビル
東京都江東区青海2-4-32 TEL:03-5531-0024
- フォーラム8
東京都渋谷区道玄坂2-10-7 新大宗ビル TEL:03-3780-0008
- 三田NNホール
東京都港区芝4-1-23 三田NNビルB1F TEL:03-5443-3233
- サンアンドサンビルディング(日立物流本社ビル内)
東京都江東区東陽7-2-18 TEL:03-3647-0115

個人情報の取り扱いについて

日本ロジスティクスシステム協会では、個人情報の保護に努めております。
詳細は、当協会のプライバシーポリシー (<http://www.logistics.or.jp/privacy.html>)
をご覧ください。なお、ご記入いただきましたお客様の個人情報は、本講座に関する確認・連絡・受講者名簿の作成および当協会主催の関連催し物のご案内をお送りする際に利用させていただきます。

●第 ____ 期 物流技術管理士資格認定講座 ● ※期のご記入をお願いいたします

(フリガナ) ()	<input type="checkbox"/> 会員	支払予定日(開催後になる場合はご記入をお願いいたします)	
会社・事業所名	<input type="checkbox"/> 会員外	月 日	支払予定
(フリガナ) ()	所属・役職名		
派遣責任者			
勤務先住所 〒 -	TEL: - -		
	FAX: - -		
	E-mail:		
(フリガナ) ()	所属・役職名	受付NO	
受講者1			
勤務先住所 〒 -	TEL: - -		
	FAX: - -		
物流実務経験(年) <input type="checkbox"/> 有資格(資格名称:)	E-mail:		
(フリガナ) ()	所属・役職名	受付NO	
受講者2			
勤務先住所 〒 -	TEL: - -		
	FAX: - -		
物流実務経験(年) <input type="checkbox"/> 有資格(資格名称:)	E-mail:		
名 円	※請求書は原則として合計金額を派遣責任者の方にお送りいたします。 その他、請求先のご希望は「協会への連絡事項」へご記入ください。		

協会への連絡事項

受付日	請求日	請求番号